

音楽クロスロード収載

ヨハン・シュトラウス像



ウィーンのシュタットパークにあるエドムント・ヘルマーが制作したワルツ王ヨハン・シュトラウスの立像は、ウィーンで最も人気の高い観光スポットで、1921年の除幕式の際には、ウィーンフィルが「美しき青きドナウ」を演奏したそうです。



このシュトラウス像から見たシュタットパークの 360 度のパノラマが紹介されています。
[Panorama: Strauss-Denkmal](#)

本ホームページのトップページの写真にお気づきでしょうか？
これは宝塚・ベガホールのヨハン・シュトラウス像です。



宝塚はもともと閑静な温泉地でしたが、大正初めに阪急電鉄の創始者小林一三が阪急電車の利用客を増やすため博覧会場やプールなどの娯楽施設をつくったことをきっかけに発展しました。小林は宝塚に劇場をつくって少女たちによる歌劇を上演させましたが、これが後に有名な宝塚歌劇となりました。現在も武庫川のほとりに宝塚歌劇の大劇場が建っています。

宝塚市は1994年10月にウィーン市第9区（アルザーグルント区）と姉妹都市の提携を結び、以来両市間で交流活動が続けられています。ウィーン市第9区にはオペラファンにはよく知られたフォルクス・オーパー（歌劇場）があり、「劇場の町」という共通点が両市提携の理由の一つになったようです。

そうした縁で2002年3月にウィーン市から寄贈を受け、宝塚市の音楽専用施設ベガホールに設置されたのがこのシュトラウス像です。像はホールの玄関脇に輝いて立っており、ヴァイオリンを弾いているその姿はウィーンの像と同じスタイルです。宝塚歌劇とフォルクス・オーパーでは格が違うと思われるかもしれませんが、良いコンサートホールがなかった時代には外国のオーケストラの演奏会が開かれたこともあるそうです。ベガホールは阪急宝塚線清荒神駅のすぐ南側の住宅地にあつて市立図書館との複合施設になっています。約370席で「小さくても響きの良いコンサートホール」を理念に1980年8月にオープンし、手割り煉瓦作りのユニークな美しい内装が施され、スイスクーン社製のパイプオルガンも設置されています。国際交流の一環としてウィーンからやって来た演奏家によるコンサートも開かれ、パイプオルガンの演奏会は市民のためのオルガンコンサートとして定期的で開催され、12月の恒例のメサイアの演奏会でも使用されています。